

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	5-(4)-ア	国際社会、情報社会に対応した教育の推進	施策	① 外国語教育、海外交流・留学等の充実
			施策の小項目名	○留学派遣及び海外教育機関等との交流
主な取組	次世代ウチナーネットワーク育成事業			
対応する主な課題	②国際的視野を持ち、国際社会において主体的に行動できる人材を育成するため、外国語教育の充実、国際理解教育の推進及び留学や外国人との交流などを通じた実践的なコミュニケーション能力の向上等を図る必要がある。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
海外県系人子弟と沖縄県の青少年が互いに交流、研鑽する場を設けることにより、世界のウチナーネットワークを担う次世代を育成する。		30人交流人数				
		県内に海外県系人子弟を招聘し、県内学生との交流事業を実施				
実施主体	県					
担当部課【連絡先】	文化観光スポーツ部交流推進課 【098-866-2479】					

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名							R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画
主な財源	実施方法	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
ウチナージュニアスタディー事業									
県単等	委託	13,191	17,501	13,807	14,854	14,763	19,487	県単等	OR元年度： 県系人子弟16名を沖縄に招聘し、県内の同世代17名と一週間生活を共にしながら、沖縄の歴史や文化等を学ぶプログラムを実施した。 OR2年度： 県系人子弟19名（うち県外1名）を沖縄に招聘し、県内の同世代16名と一週間沖縄の歴史や文化等を学ぶプログラムを実施する。
予算事業名							R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画
主な財源	実施方法	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
									OR元年度： OR2年度：

様式1(主な取組)

活動指標名	【ウチナージュニアスタディー事業】交流人数				R元年度			R元年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	33	44	33	33	33	30	100.0%	14,763	順調	①海外移住者子弟を沖縄に招聘し、県内の学生と1週間合宿しながら沖縄について学ぶ事業。 ②2週間程度県内の学生を海外県人会へホームステイ派遣する事業。
活動指標名					R元年度					
実績値										
活動指標名					R元年度					
実績値										
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和元年度の取組改善案								反映状況		
<ul style="list-style-type: none"> 事前学習やプログラム内で各交流事業の参加者が交流できる機会を設けることでウチナーネットワークの活性化を図り、他交流事業への積極的な参加を促す。 各交流事業参加者が「世界のウチナーンチュの日」関連イベントに参加するだけでなく、ウチナーネットワークの担い手として発信する場を設ける。 								<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度はウチナーンチュ子弟等留学生受入事業、ウチナージュニアスタディー事業、海邦養秀ネットワーク構築事業にて各交流事業の紹介を行い、事前学習や当日運営で子弟留学生が積極的に関わる等の連携を図った。また、「世界のウチナーンチュの日」関連で実施した次世代討論会(World Youth Uchinanchu Meeting)では、各交流事業参加者が参加してワークショップを行い、積極的な交流が図られた。 		



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

- ・各事業の報告会などを参加者に紹介し、他事業へのプログラム参加を促した。
- ・演劇上映、出前講座といった「世界のウチナーンチュの日」関連イベントに各交流事業参加者が参加することで、ウチナーネットワークの担い手としての意識向上に繋がった。

○外部環境の変化

- ・平成28年度に開催された第6回世界のウチナーンチュ大会において、毎年10月30日が「世界のウチナーンチュの日」と制定されたことなどを踏まえ、次世代も含めウチナーネットワークを担う各種隊が沖縄との繋がりを強化する取組を行う行動宣言がなされた。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・各交流事業の参加者が連携することで事業間を超えて交流できる機会を作る必要があるとともに、OBOGも含めて「世界のウチナーネットワーク」に対する意識を維持向上する取組が必要である。

4 取組の改善案 (Action)

- ・各交流事業参加者がOBOGも含めて集う場を作り、個々人の「世界のウチナーネットワーク」に対する意識の維持向上と参加者間のネットワーク構築を図る。